

おわりに

全体の傾向として、大学への満足度は概ね高かった。悩みを持つ学生は9割程度おり、学業、進路、経済的問題、交友関係の順に多かった。その他の項目では、過去の集計結果と大差がないものの、いくつかの特徴を挙げるができる。

1つ目に学業に関する集計結果として、8割以上の学生が授業を難しいと感じ、半数以上の学生が、学習方法が分からないと感じていた。さらに自己の勉強の姿勢を頑張っていると感じている学生は約3割に留まっており、残る7割の学生は学習意欲が乏しい者や、自ら努力不足と感じながらもどのような学習方法が良いか分からずに困っている者が存在する可能性がある。

2つ目に学外における生活面では、家庭からの生活費の支援を受けている独居学生が8割おり、全体の学生のうち4割近くが経済的に苦しい、やや苦しいと感じている。そのため継続したアルバイト（飲食店、スーパー、家庭教師の順に多い）を8割以上の学生が行い、その時間は週20時間以上の者（2割弱）、週10時間以上（6割近く）となっており、自己学習への影響が懸念される者もいる。他方、ボランティア活動の経験のある学生は3割強であり、学生の努力と大学側の支援によって微増している。

最後に健康面については、依然として朝食を食べない者が15%おり、啓発していく必要がある。また、ハラスメント相談についてはオリエンテーションで口頭説明し、掲示板を利用して周知を図っているにも関わらず、窓口の存在を知らない者が6割以上という結果であり、丁寧に説明していくことが課題である。